

かわまちづくりにおける地域ポテンシャルの発掘と 活用手法について

Discovery of Potentials of Communities in Waterfront Utilization and their Utilization Method

まちづくり・防災グループ 研究員 **松尾 峰樹**
 主席研究員 **光橋 尚司**
 まちづくり・防災グループ 研究員 **佐治 史**

2010年に創設された「かわまちづくり支援制度」は、2018年3月時点で191箇所にて活用されている。これまでの活用事例分析から、「かわまちづくり」を地域の活性化につなげるためには、潜在的な地域資源や水辺空間の利活用に関心を持つ事業者といった地域ポテンシャルを発掘し、活用することが重要であると考えられる。

本稿では、「かわまちづくり」における地域ポテンシャルの発掘及び活用手法を検討し、岡山城、岡山後樂園周辺の旭川及び百間川にて、水辺空間の更なる賑わい創出の可能性を探るため、地域ポテンシャルの発掘手法を試行した結果について報告する。

キーワード：かわまちづくり、地域ポテンシャル、事業者、地域資源、発掘と活用

The Waterfront Utilization support system, which was established in 2010, is employed at 191 locations as of March 2018. According to an analysis of its utilization cases, in order to link Waterfront Utilization to the vitalization of communities, we consider it important to discover and utilize the community potentials such as business operators that are interested in use of potential local resources and waterfront spaces.

In this article, we will discover the potential of communities in Waterfront Utilization and consider about how to utilize it. We will also report the results of our trials of the community potential discovery methods to explore the possibility of further prosperities at waterfront spaces of Asahi River and Hyakken River, which run near Okayama Castle and Okayama Korakuen.

Keywords: Waterfront Utilization, community potentials, business operators, local resources, discovery and use

1. はじめに

地域ポテンシャルとは、例えば地域の産業戦略においては地域が有する技術的な強み、地方自治体における地域戦略においては生産、製造、観光および地域特産品や地域ブランド、技術、施策等といった地域特性を示すものとして使用されている用語である。かわまちづくりでは、歴史・文化や自然環境、景観、イベント等の活動、その他魅力的なスポット等といった「まち」や「かわ」が有する地域資源や、河川空間の利活用に関心を持つ事業者等が地域ポテンシャルに該当すると考えられる。

2010年に創設された「かわまちづくり支援制度」は2018年3月時点で191箇所にて活用され、全国各地で「かわ」と「まち」が一体となった賑わい創出が取り組まれている。これまでの活用事例分析から、「かわまちづくり」を地域の活性化につなげるためには、地域ポテンシャルを発掘し、活用することが重要であると考えられることから、かわまちづくりの地域ポテンシャルの発掘及び活用手法を検討し、岡山城、岡山後楽園周辺の旭川及び百間川にて地域ポテンシャルの発掘手法を試行した。

2. 地域ポテンシャルの発掘手法

2-1 河川空間の利活用に関心を持つ事業者等の発掘手法

河川空間の利活用に関心を持つ事業者等を見出す手法として、アンケート調査や地域の事業者精通している組織へのヒアリング或いは紹介いただく方法等が考えられる。

アンケート調査は、調査対象数を増やすことで網羅的に把握することが可能だが、調査の準備、発送、回収、集計及び分析の各工程に時間を要する。

地域の事業者精通している組織へのヒアリング或いは紹介いただく方法は、アンケートのように網羅的な発掘は困難だが、河川空間の利活用に関心について確度の高い情報を比較的短期間で収集可能であると考えられる。

河川空間の利活用に関心を持つ事業者等を見出す手法として有効であると考えられ、目的とする成果にそった手法を選択することが重要となる。

ヒアリング或いは紹介いただく方法における地域の事業者精通している方々として、例えば以下があげられる。

- 事業者と連携を図る機会が多いと考えられる部署
自治体の総合的な政策の企画、立案、それらに係る

連絡、調整等を行っている総務関係や企画関係の部署、観光に係る部署、まちづくりに係る部署、商工等地域産業に係る部署等は、その業務の性質上、事業者と連携を図る機会が多いと考えられ、事業者について有益な情報が得られる可能性がある。

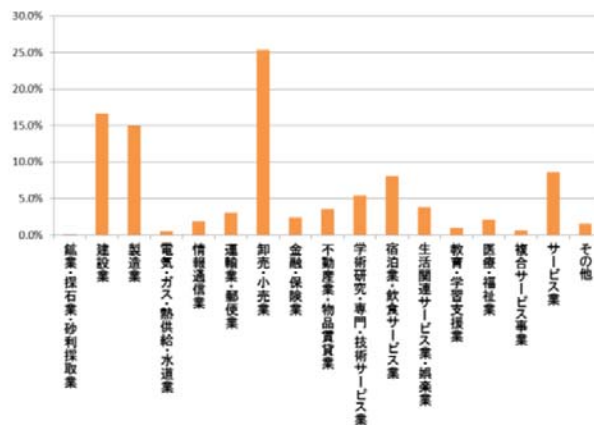
- 商工会議所

商工会議所は地域経済の中心的存在の一つであり、HPにて地域における多様な業種の企業が加盟していることが確認できるように、地域の事業者精通した団体であると言える（図-1）。

- 地元メディア

地域に根ざしたラジオ局やタウン情報誌は、地域の最新情報や地域住民の関心が高い情報を収集、発信していることから、地域に精通している企業としてあげられる。

最近では商工会議所に属さない事業者が増えてきていることから、商工会議所への情報収集では包括できない事業者や柔軟で斬新な発想をもった事業者等についての情報収集が期待できる。



【商工会議所会員企業数 約118万社（者）】

図-1 2015年度商工会議所会員企業の業種別内訳
(日本商工会議所HPより)

2-2 地域資源の発掘手法

(1) 現地踏査による新たな地域資源の発掘

観光庁の観光地域づくり政策の一つであるニューツーリズムの振興では、これまで観光資源としては気付かれていなかったような地域固有の資源を新たに活用し、多様化する旅行者のニーズに即した観光の提供を図っている。

かわまちづくりにおける河川空間の賑わい創出においても、自治体が掲げている都市計画マスタープラン

や景観基本計画、観光ガイドブック、或いは地域のタウン情報誌等で確認できるような地域を代表する資源だけでなく、新たな資源を発掘し活用することが重要であると考えられる。

これまで地域資源として認識されていなかった新たな資源を発掘するには、様々な視点からの現地踏査が最も有効であると考えられる。

● 予備知識を持った第三者の視点

これまで地域資源として認識されていなかった新たな資源とは、地域にとっては日常生活の一部として存在しているが、第三者にとっては魅力と感じられるものである。こういった資源は居住区としての視点となってしまう地域住民では発掘が難しいため、様々な地域で資源発掘、情報収集を行っている学識経験者や旅行会社といった予備知識を持った第三者の視点が必要となる。

● 事業者等の視点

かわまちづくりは河川空間の賑わい創出による地域活性化が目的であることから、地域資源の発掘においては、河川空間の利活用に関心を持つ事業者等から河川空間の使い方を直接聴取することも有効な手段である。

(2) 効率的な地域資源の発掘

現地踏査による地域資源の発掘において、河川空間の利活用に関心を持つ事業者や予備知識を持った第三者の視点が必要であることから、これらの様な方々を一同に集め、ツアー形式で現地踏査を行うことで効率的且つ効果的に地域資源が発掘できると考えられる。

3. 地域ポテンシャルの活用手法

3-1 コミュニティの形成

発掘した事業者に河川空間の利活用方法を考えていただく上で、事業者単体では実現不可能だが連携することで実現可能となるアイデアや、連携することで新たな発想が生まれることがあることも考えられることから、発掘した事業者等を結びつけテーマコミュニティを形成し、事業者等の柔軟な発想による河川空間の利活用方法を見出していただくことが有効であると考えられる。

3-2 ストーリーの作成

現地踏査により発掘した地域資源をより効果的に活用するには、発掘した資源を個々に発信するのではな

く、テーマを設定しテーマに副った資源を抽出してストーリーを作成し発信することで、点在している地域資源を面として活用することができる。

また、ストーリーを作成することで対象とするニーズが明確となり、対象に合わせた効果的な情報発信や事業者等による河川空間の利活用展開等が可能となることから、ストーリーの作成はかわまちづくりの計画段階のみならず運用段階においても効果的であると考えられる。

このようなストーリーを作成する上では、地域資源の発掘と同様、予備知識を持った第三者や発掘した事業者等の視点が必要であり、地域ポテンシャルの発掘から活用までを一連で取り組んでいくことが重要である。

4. 地域ポテンシャルの発掘手法の試行

地域ポテンシャルの発掘手法の試行として、岡山のタウン情報誌へのヒアリング及び岡山市の中心市街地や岡山城、岡山後樂園周辺の旭川及び百間川の現地踏査を行った。試行実施にあたり、予備知識を持った外部の有識者として、多摩大学地域活性化マネジメントセンター長の中庭教授に同行いただいた。



図-2 旭川、百間川及び地域資源の位置図

4-1 ヒアリング調査

タウン情報誌へのヒアリング調査により、岡山城、岡山後楽園周辺の旭川等における事業者について、以下の情報を収集することができた。

- ・ 出石地区にはそこでしか販売していないノートなどがある文具店や、好きな器を選んでコーヒーを振る舞うというイベントを行ったりしている器ギャラリー等、個性的な店舗がいくつか存在する。
- ・ 出石地区にある某カフェ店のオーナーは、出石地区のカフェや雑貨店等の若手オーナー12~13名と定期的にコンセンサスをとることをされているようである。
- ・ 岡山で問屋街だったところにおしゃれなカフェをつくった方が出石に出店している。岡山のカフェシーンを変えたキーマンの1人だと思っている。
- ・ 百間川と旭川の合流点と親鶴見橋の間の川沿いに、岡山出身の方が地ビールを作っている店がある。眺めがよく、県外からの来客も多い。



写真-1 タウン情報誌へのヒアリング状況

と思われる。

- ・ 百間川は、岡山市を水害から守るたぐいまれな治水施設であることを伝えることが重要であり、岡山市の治水秩序を歴史的にも認識してもらう教育の素材として活用することができると思われる。
- ・ オランダのアムステルダムでは、風車を単なる牧歌的な風景としてではなく、国土を水から守る施設として見学させている。岡山後樂園についても、前述のようなストーリーによりこれまでのシティプロモーションのような日本三名園の一つとは違った見せ方ができると考えられる。
- ・ 相生橋上流の旭川右岸の石積護岸や京橋の船着場跡については、築造された時期等が分かる解説等を設けることで、歴史の痕跡を発見する楽しさを引き出すことに有効であると思われる。



写真-2 京橋の船着場跡（旭川）

4-2 現地調査

(1) 現地踏査にて発掘した地域資源によるストーリー作成の例

中庭教授を交えた岡山の中心市街地や岡山城、岡山後樂園周辺の旭川、百間川の現地踏査では、地域資源を見て回りながら、それらによるストーリー作成の例について、以下の様な提案をいただいた。

● 旭川と百間川の岡山の治水、利水文化の1つのシステムとしての見せ方

- ・ 過去に岡山市内で行われた河川の付け替え、百間川の荒手や京橋の船着場を用いて、岡山の成り立ちや洪水との戦いを物語として見せる価値はあ



写真-3 一の荒手（百間川）



写真－4 石の積み方が途中から変化している石積護岸（相生橋上流の旭川右岸）

(2) 現地踏査により発掘されたその他の地域資源
前項にて示した他に、地域資源としてあげられたものの一部を以下に示す。

● 岡山後楽園周辺の旭川右岸側

- ・ 右岸側から対岸の後楽園を望むと、後楽園に船で渡りたくなる。また船で内堀から旭川、後楽園まで通れるよう、岡山城内堀を旭川とつなげられるとより魅力的な空間となる。



写真－5 旭川右岸側から望む岡山後楽園



写真－6 岡山城内堀の状況

● 岡山城

- ・ 天守閣周囲の樹木が繁茂し、特に南側からは天守閣が非常に見えづらい状況である。岡山城南側の京橋の船着場等からの回遊性を向上させるためには、樹木を剪定することも検討に値すると思われる。



写真－7 南側から望む岡山城

● 出石地区

- ・ 石山公園付近には、お洒落なカフェや、ブライダルサロンなど、旭川の価値を活かしたと思われる店舗が存在している。このような店舗の経営者は、旭川の河川空間利活用のアイデアも持っている可能性がある。



写真－8 石山公園付近の店舗

5. おわりに

今回検討した地域ポテンシャルの発掘手法に沿って試行したタウン情報誌へのヒアリングにて、水辺の利活用に関心がありそうな事業者の情報や事業者のネットワークを伺い知ることができた。また現地踏査では、発掘した地域資源によるストーリー作成の例が確認できた。

しかし、今回は把握した事業者への接触は、時間の都合上実施できなかった。また現地踏査により発掘した地域資源によるストーリー作成も学識者一人であったため、今後は事業者や予備知識を持った外部の方等を交えたツアー形式による現地踏査の有効性や、複数人によるストーリー作成における有効な手法等について試行により検証し、より実践的な手法として精査していく必要がある。

ご多忙の中、現地踏査やヒアリング調査にあたりご協力いただきました多摩大学中庭教授様、及び岡山河川事務所の関係各位に厚くお礼申し上げます。

<参考文献>

- 1) 多摩大学教授中庭光彦：観光地経営と『かわ』の活かし方～かわとまちを結ぶプラットフォーム構築へ～，平成29年度かわまちづくり全国会議 基調講演発表資料，2019年2月
- 2) 国土交通省中国地方整備局岡山河川事務所：平成29年度旭川水系河川事業効果検討業務報告書，2019年3月